

山行報告書

受付 No.	51	登山地・ルート	越百山
目的	春山に向けてのトレーニング		
メンバー	大山		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
4・28・日	晴れ	浜松＝伊奈川ダムP～登山口～越百小屋～越百山～小屋～伊奈川ダムP＝浜松 5:34 6:18 9:26 10:24 11:06 13:52

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

4月はうだうだしてたら山に行きそびれて、さすがにこのまま春山突入はまずいので、何としても行かなければと山に向かった。大桑の道の駅で仮眠して伊奈川ダムの駐車場へ。積雪期の越百山には2年ぶり4回目の挑戦である。今度こそ登頂したいという気持ちで臨む。

GWの割に駐車場の車は少なかった。登山口への林道を歩いているともうないと思っていたフキノウが少なくながら顔を出している。帰りにはもうないかとも思い、収穫しながら歩く。なんか緊張感がない。登山口に入って1800mくらいまでは雪がない。最初は氷が登山道を覆い、アイゼンをどうしようかと思っているうちに雪になってきたのでそのまま登る。2100mくらいで傾斜が出る頃にアイゼンを装着。夏にジグザグ下るところを直登するのだからきついわけだ。小屋手前のピークを巻けないかと左側を注意しながら登っているとトラバースの目印のテープを発見。ピークの少し下を回りこんで小屋へと下る。

小屋には大きなテントは2張あった。トレースを追って越百山へと登る。樹林が切れると風が出てきた。右側に雪庇の張り出しがあり、風上側の斜面をトラバース気味に登って行くことになる。山頂直下は傾斜も出て固い雪面に前爪を効かせながら登る。

山頂も風が強く、風下の斜面に入って休憩する。伊那谷を隔てて正面に南アルプスのラインナップと、塩見岳の後ろには富士山が見え、今この場所にいる幸福を感じる。南越百山は疲れたのでパス。

下り。真っ直ぐに下る箇所はともかく、急傾斜のトラバースの下りに躊躇する。今シーズンは1回滑落しており、不測の事態は起こるものだとしみたのでここは慎重にバックステップで下りる。そこを通過すればあとは小屋まで快適に下る。結局、テントの人々には会わなかった。南駒方面へアタックしていたのだろうか。小屋からは登り返し。ピークを巻くつもりだったがトレースを追っていたらピークを経由してしまった。そこからの下りは、気温も上がり雪がアイゼンにダンゴになって厄介だった。アイゼンを外して下りながら、今回はコケることなく下れたと心の中でちょっと自慢。しかし、凍結箇所を避けたところで木の根に足を置き滑って尻もちをつく。山はわずかな慢心も見逃さないのだと反省する。林道に下り、フキノウを探しながら駐車場へ戻った。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



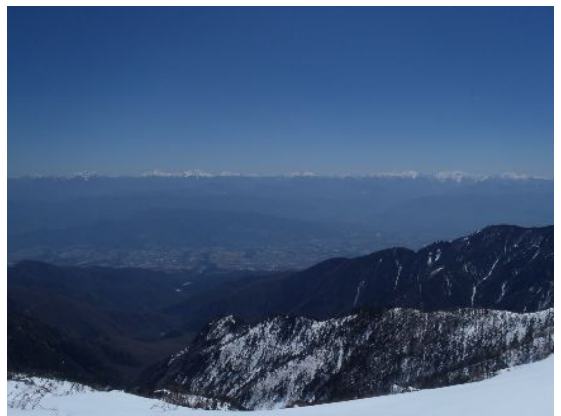
南駒…ほんとはあっちへ行きたかった…



振り向くと高度感抜群



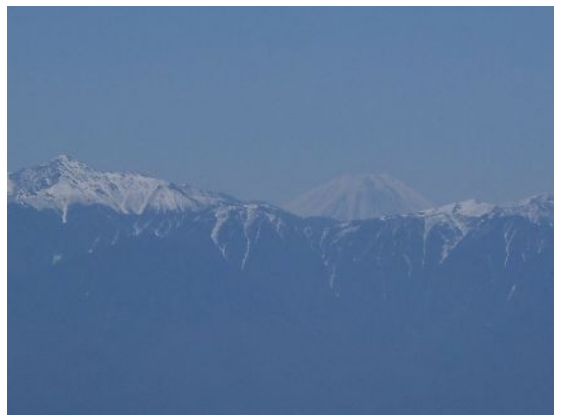
越百小屋から見た越百山



南アルプス



雪庇がよく育っている



富士山（右側）